

るもので有らうと思はれる。

尙本書には附録として澤柳博士外四氏の追想録並に故博士の畧歴が載せてある。菊版四二七頁、定價三圓八拾錢、東京市牛込山伏町イデア書院發行（高橋俊乗）

東洋倫理思想概論

文學士 岩橋 遵成著

清人皮錫瑞氏の經學歴史は夙に小島助教の點を附して翻譯され、新會梁啓超氏の清代學術概論は二種の邦譯をさへ出すに至つた。北京大學叢書の一、胡適氏の名著中國哲學史大綱上卷出て茲に五年版を重ねること既に八回、吾人の寡聞なる未だ之が詳細なる紹介をだに耳にしない。該書は中古近世の二卷（合して一冊とす）を缺くが故に未だ完備しないけれども胡適の惠まれたる才子肌の天分と、現代支那人に珍しい犀利なる論法と、支那新人として稀有なる考證學的素養と勿論そこに幾多の粗漏ありとするものとを以てヴァインデルバント其他の哲學史論、史料審定及び整理之法、西洋校勘學等を消化して、蔡元培が所謂證明的方法、扼要的方法、平等的眼光及系統的研究の長所を遺憾なく發揮したもので現代の吾人が有する支那哲學史中最も特色あるものの一である。今岩橋文學士の本書を見るに體系は主として學士の舊著東洋倫理に本づいて居るがその論旨に於ては初の七分の五迄は最も多く胡適の該書に據つたと思はれる。従つて本書の價值は主として胡適氏に依存し、その評價すべき要點は如何に之を利用したかといふにある。序文に「免（免？）固冊子」とあり「成るべくその叙述を平

明にした」とある通り一般の初學者を對手としたもので啓蒙的の著述としては良書といつて然るべきだらうと思ふ。従て胡適の著述に特筆され更に梁啓超の墨子學案に於て最も重要視されたる墨子論理學にさまで注意しなかつたり、易などの深遠な理論を排除したり、代表的の學者以外を揚げなかつたりしてゐるのも啓蒙を主としてゐる以上當然の結果と見られる。但し胡適に従つて孔子の正名主義の影響を墨子の名學や楊朱の名實論に迄及ぼさうとするが如き果して直に首肯し得べきであらうかどうか更に些細なこゝさではあるが五雜俎を誤刷して五雜組となしたるが如き、冤囹冊を免囹冊と、殷を段と、謝肇淛を謝肇制と、荀子を孟子と、誤りたるが如き尤も中には根據あつてしかく書かれたるものもあるかも知れないが固有名詞や故事などの誤は正誤表を附する丈の初學者に對する親切が望ましいと思ふ。百頁に「自ら反さうして縮からずんば……自ら反さうして縮ければ」とあるが何と讀ますのであらう。さもあれ啓蒙書としては色々の意味で良書と思ふから一般に廣く愛讀されて一には胡適氏の犀利なる觀察二には著者編述の苦心の十分に報いられんことを切望して止まない。妄評多謝（東京集鴨三の一七、天地書房、菊判三五九頁、三四五十錢）
—（加藤仁平）

日本倫理思想の系統

文學博士 補永 茂助著

著者は日本道德を我が文明の眞髓と見、日本に立派な倫理思想の系統あることを明にし、以て國民的自覺を促し、之を世界に提